



3畠町と4畠町で「馬鹿の稽古」について調査を行った調査隊。
広井隊員は、朝のご挨拶の中で、意味をよく考え心を込めて「ふさわしくお使いください」とお唱えするようになってから、その日一日、嫌なことに出会つても「自分に必要なことなんだよね」と前向きにその出来事について考え、落ち着いて取り組めるようになったと感じます。

「えーと、貧乏の稽古というのは、貧乏になる稽古でいいのかな? 例えば無人島生活をするとか、ホームレス生活をするとか。でも、わざわざ貧乏になるのはハードル高いなあ」と広井隊員。

有賀隊員も困惑気味です。「金剛さまは『貧乏人は嫌いだよ』(『恩愛の絆』544頁)ともおっしゃってるわ。金剛さまがおっしゃる貧乏と、私た



ちが捉えてる貧乏の意味はちよ
と違うかもしないわね……
調査隊はまず、「貧乏」の定義か
ら考えることにしました。

「貧乏」って
ネコにわかる
かしら?
月二万円で
暮らすとか?
実は「貧乏」には
深い意味が
込められて
いるんだよ?

所得の増加や裕福な暮らしを求める時代に
なぜ貧乏の稽古なのでしょうか?



み教え調査隊とは

いつも耳にするけど、実はよく分からぬ——そんな「解説用語」を調査し、教える理解を深めるべく秘密裏に結成された特別調査チーム。毎回金剛さまの遺されたご指導を読み解き、時に取材に繰り出して、調査した結果を誌面にて報告する。

る良くない心根が、「貧乏人根性」と言われるものですが、金剛さまはそれだけを言われているのではありません。せん。

「あつても感謝を出せない、気持ちの貧しい人」「出すのが嫌いな人」「遊びにはいくらでも出すけれど、いいことにお金を使えない人」と金剛さまのもとで学ばれていた側近の先生が説かれたように、むしろ余裕のある生活をしているにもかかわらず、「自分のことにしか使えない人」のことを指しています。さらに言えば、お金に留まらず、自分の物、自分の時間などを自分のためには使っても、他人のためには使わない人のことを総じて「貧乏人根性」と言われています。

そこには価値のある物やお金に対して「執着する心」と、どこまでも欲しいと「貪る心」があり、そういう人の中には自己中心的な心が隠れています。



てします。また、欲が満たされなければ不平不満の生活に陥ってしまうもので、欲は際限がないために、そのような生き方では本当の安らぎは得られないのです。

ですから金剛さまは、大なり小なり自分の中にある「貧乏人根性」を「人に与えられる豊かな心」に変えていくように、誰もが貧乏の稽古をすることが必要だと言われているのです。

有賀●なるほど。そういうえば最近、まさに貧乏人根性といえる某知事が話題になっていますね。充分な給料を頂いていながら、政治資金を自分のプライベートに近い買い物や旅行に使ってきたことがバレちゃって。

隊長●自分の懐を痛めずに人のお金うまく使って「得をした!」と思うようなケチな心の人は、いずれ信用を失うものだよ。そういう姿は、

広井学●そもそも「貧乏」って言葉はどういう意味があるのかな?

有賀冬子●辞書で意味を調べると、「財産や収入が少なくて生活が苦しむこと」ですって。なんとなく「貧乏」というと、狭い家に住んで、その日の食事もままならず、着の身着のままで、衣食住に事欠く生活をイメージするんだけど、現代の日本にはそこまで暮らしに困窮している人は見当たらないわね。

広井●金剛さまはそんな一所懸命に働いてもお金のないような人をダメだっておっしゃられているの?

隊長●金剛さまがあっしゃられた「貧乏人は嫌いだよ」という言葉の奥には深い意味が込められていてね、金剛さまは詳しくはお説きになられなかつたけれど、側近の先生がこう易しく解説されているよ。

「貧乏人というのは『文なしの』ことではない。あつても感謝を出せない、気持ちの貧乏い人のこと」

は見当たらないわね。

白辺隊長●現代はそんな、極貧生活をしている人はほとんどないのかかもしれない。でもいくらがんばって働いても年収一〇〇万円を下回る「ワーキングプア」と呼ばれる、普通に生活はできているけれど、貯蓄はなかなかできず、贅沢な旅行などに行けないような人たちが増えているって言われているね。

広井●金剛さまはそんな一所懸命に働いてもお金のないような人をダメだっておっしゃられているの?

隊長●金剛さまがあっしゃられた「貧乏人は嫌いだよ」という言葉の奥には深い意味が込められていてね、金剛さまは詳しくはお説きになられなかつたけれど、側近の先生がこう易しく解説されているよ。

「貧乏人というのは『文なしの』ことではない。あつても感謝を出せない、気持ちの貧乏い人のこと」

一般的には、生活が苦しい人がお金に余裕がないために、貧しい生活に心が折れて「どうせ何をしてもダメなんだ……」と、卑屈な心やお金を持っている人を妬んでひがむ心、また、生活の中で、物やお金を貪欲に求めて周りを気にせずガツガツすることや、人から何かをしてもらうことやおごつてもらうことを「当たり前」と思つてしまふことなど、これら貧乏い生活状況から発生していく



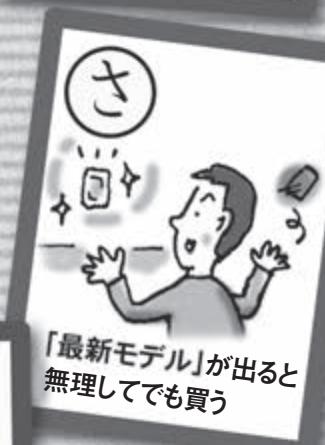
具体的に「貧乏人根性」とは?

「貧乏人」というのは出すのが嫌いな人や、遊びにはいくらでも出すけれど、いいことにお金を使えない人のこと」このことから、金剛さまは、実際に財産や物がない暮らしをしている人を嫌われたのではなく、「貧乏人根性」ともいえる心の貧しさのことを行なはれたことが分かるね。

貧乏人根性かるた

誰にもあるある!?

さがしてみよう!?





有賀●「貧乏人根性かるた」……なかなか胸にグサッとくるものがあるわ。お金やモノに執着したり、無闇に貪ってしまう心って案外、身近なものだったのね。

広井●でも、戦中戦後の物のない貧しい時代に比べたら、今の日本は格段に豊かだし、どこの家もある程度のお金は持っているよね。なのに、

どうして「もつともつと」と貪る気持ちがわいてしまうのかな?

有賀●確かに不思議よね。

隊長●もしかしたら、今の豊かな社会の仕組みに、私たちの貪る心をあらるものがあるのかもしれないな。

有賀●確かに不思議よね。

物を尊び、無駄なく最大限に活かして使う「もったいない」精神は、日本人ならではの美德でした。しかし、それも昔の話。今の私たちの暮らしあは、その逆に「たくさん貢つて、

たくさん捨てる」使い捨て文化のもとに成り立っています。

日本が大きく変わったのは戦後の高度経済成長期、「大量生産・大量消費」という社会システムが導入されたことでした。市場にはたくさん安価な商品が出回り、人々の所得も着実に増え、誰もが欲しいものを簡単に手に入れられる喜びを享受できるようになりました。そうした豊かさの実感の中で生まれたのが「お金やモノをたくさん持つことが幸福」とする価値観でした。

時代は変わって、バブル崩壊以降、不景気が続き、昔のような収入を期待できない時代の中、かつてのようになに誰もが欲しいものを手に入れることが難しいのが現状です。その一方で社会システムに変化はなく、魅力的な新製品は次々と開発され、また、インターネットの普及で商品の購入がより手軽にできるようになりました

た。私たちの購買意欲を絶えず刺激して物を買わせようとすると社会の誘惑が「欲しくても手に入らない」という飢餓感をおあります。そうした空気が、欲しいと決めたものは手に入れないと思ふまないような貪る心を増幅させ、知らず知らずのうちに貧乏人根性に陥りやすくなっています。

そして、たくさんのお金やモノがなければ幸せになれないのならば、それが叶えられない今は、多くの人が不幸かもしません。

しかしながら、そもそも物質的な豊かさの先に幸福があるという価値観は正しかったのか、お金や物を手に入れることで、本当に人は幸せになれるのでしょうか。
たとえば、スマートフォンの新機種が出るたびに買い替える人がいますが、声高に宣伝される便利な機能に惹かれて手に入れても、しばらく

して新しい機種が出れば今度はそちらが欲しくなり……そこ終わりはありません。しかも手に入れた瞬間は幸福感を覚えたとしても、また新しい機種が出れば、そんな幸福感は消しとんで、残るのは飢餓感のみ。まるで塩水を飲むように、しぐら手に入れても「まだ足りない」「もつと欲しい」と渴ぼうに苦しみ、心の安らぎが訪れることがあります。

「たとえ金貨を雨と降らすも、人間の欲は際限がない。欲も限度に満足せば仮に罪を以て論するも微罪でありましょう。こう考え及ぶ時、右手の貪欲も、氣前よく左手から時かばせめて罪滅ぼしにならぬとは限りませぬ。(中略) 心に足るを知るは最上の財産である」(『トト聖訓』第七巻 13頁)

自らの欲望に踊らされることなく、それをコントロールする生活、「足るを知る」生活こそが、金剛さまの説かれた「貧乏の稽古」の第一歩です。そこに私たちが欲望のスペイアルから解き放たれ、本当の幸せを知る鍵があります。

広井●物を無駄にする」とを絶対に許されなかつた金剛さまが、今の僕らの姿をこうくなつたらどう思われるだろう……。

隊長●こんな生き方をすれば行き詰

まらないはずがないんだ。金剛さまも繰り返しあつしやられたように、「金を粗末にすれば金で、物を粗末にすれば物で困つたり悲しんだりする時が来る」(『金剛伝』第三巻321頁)のが法則だからね。

有賀●うーん、ますます貧乏の稽古の必要性を感じますね。

広井●特に今の時代こそ必要だと思います。でも「足るを知る」ことは大切だけど、金剛さまはお金や物を持つこと 자체を悪いとはおっしゃられていませんよね。

有賀●先ほどの『聖訓』にも「右手の貪欲も、氣前よく左手から時かばせめて罪滅ぼしにならぬとは限りませぬ」とあつたけど、要はどう使うかが大事つことなかじら?

隊長●そのあたりに金剛さまの説かれた「貧乏の稽古」のもつと深い意味がありそうだな。引き続き調査を続けてみよう! 【八月号へ続く】